

震災と原発事故から13年、
福島で、こころの病が多発していた

京都市基幹型支援センター研修 普及啓発事業

自主上映&出演者（米倉一磨氏）のお話

2025年1月10日（金） 13:00～16:30

@ひとまち交流館京都 2階 大会議室

京都市下京区西木屋町通上ノ口上る梅湊町83番地の1

生きて、 生きて、 生きる。

受付開始／12:30～ 上映／13:15～

米倉一磨氏のお話／15:30～16:30

定員／100名 参加費／無料

申込／QRコードから

締切／2024年12月25日（水）



SINCE 1889
Leeh-way
FROM AMERICA
-PRODUCT-

協力：メンタルクリニックなごみ

NPO法人相双に新しい精神科医療保健福祉システムをつくる会

相馬広域こころのケアセンターなごみ

出演：蟻塚亮二 米倉一磨

制作・監督・撮影：島田陽磨 撮影：熊谷 裕達 西田 豊 前川 光生 編集：前嶋 健治 音楽：渡邊 崇

助監督・撮影・宣伝美術：鈴木 響 オンラインエディター：中田 勇一朗 効果・整音：高木 創

助成：文化庁文化芸術振興費補助金（映画創造活動支援事業） 独立行政法人日本芸術文化振興会

製作：日本電波ニュース社 2024年 / 日本 / 113分 / カラー / ドキュメンタリー

喪失と絶望の中で生きる人々と
ともに生きる医療従事者たちの記録

福島県浜通り地域では、2011年の大震災以降、今もなお、多くの方がたくさんの辛さや苦しさを抱えながら生きています。離れた地域のことなので、関係ない、知らないとするのではなく、いつ起こるか分からない自然災害により暮らしが変わっていくことを【わがこと】として捉えていくために、今回の映画上映を普及啓発事業として企画しました。

映画に登場して下さった方々の思い、今、何が起きているのか？を、まだ知らない人に届けたい、そして同じ時を生きる、「生きて生きて生きる」ために、今できることを一緒に考え、できることからしていきましょう。

「なんか生かされてんな」

「誰に？」

「それがわからんのですわ」



頑張れって言ったって
何を頑張ればいいの？

震災と原発事故から13年。福島では、時間を経てから発症する遅発性PTSDなど、こころの病が多発していた。若者の自殺率や児童虐待も増加。メンタルクリニックの院長、蟻塚亮二医師は連日、多くの患者たちと向き合い、その声に耳を傾ける。連携するNPOこころのケアセンターの米倉一磨さんも、こころの不調を訴える利用者たちの自宅訪問を重ねるなど日々、奔走していた。

津波で夫が行方不明のままの女性、原発事故で避難中に息子を自死で失い自殺未遂を繰り返す男性、避難生活が長引く中、妻が認知症になった夫婦など、患者や利用者たちのおかれた状況には震災と原発事故の影響が色濃くにじむ。

かつて沖縄で沖縄戦の遅発性PTSDを診ていた蟻塚医師は、福島でも今後、同じケースが増えていくのではと考えていた。

ある日、枕元に行方不明の夫が現れたと話す女性。「生きていていいんだ」という希望を持った時に人は泣ける」と蟻塚さんは話す。米倉さんは、息子を失った男性にジーンズカンを一緒に焼くことを提案。やがてそれぞれの人々に小さな変化が訪れていく。

喪失感や絶望に打ちのめされながらも日々を生きようとする人々と、それを支える医療従事者たちのドキュメンタリー。

「人間もつと泣かなきゃだめだと思おう」



主催：京都市

お問い合わせ：京都市中部障害者地域生活支援センター「にしじん」075 - 417 - 1630